

# 農作物病害虫発生現況情報（9月） 水稻編

## 1 いもち病

(1) 収穫期の巡回調査では、穂いもちの発生圃場率は23.9%（平年34.0%）で平年よりやや低く、発生程度は平年より低かった（図1）。

## 2 紋枯病（疑似紋枯病を含む）

(1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は76.7%（平年79.8%）で、平年並だった（図2）。

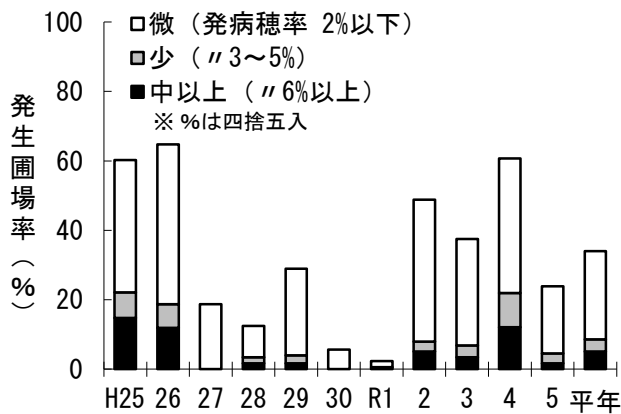


図1 穂いもちの発生圃場率の年次推移 (収穫期)

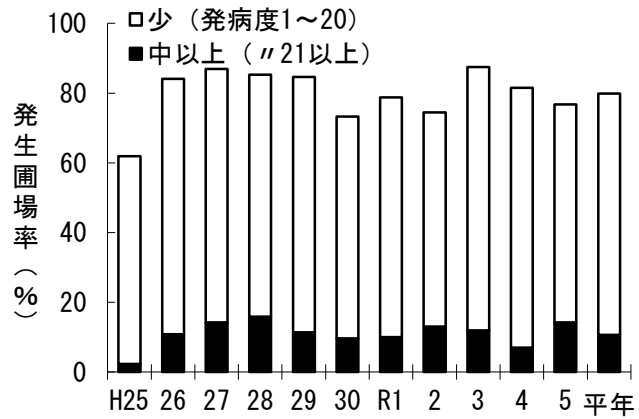


図2 紋枯病の発生圃場率の年次推移 (収穫期)

## 3 ごま葉枯病

(1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は15.3%（平年4.5%）で平年より高く（図3）、特に沿岸部で発生程度の高い圃場がみられた。

## 4 稲こうじ病

(1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は1.7%（平年4.2%）で、平年より低かった（図4）。

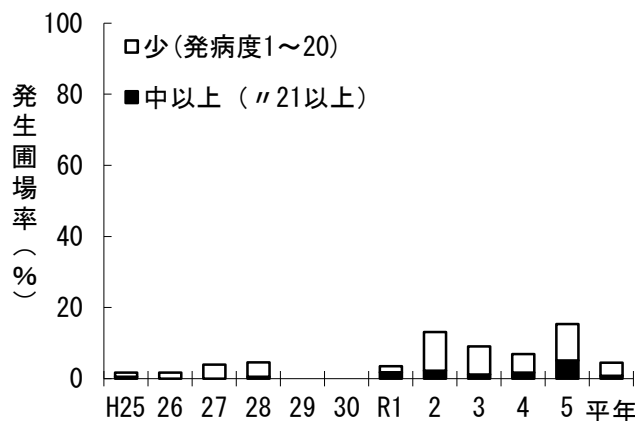


図3 ごま葉枯病の発生圃場率の年次推移 (収穫期)

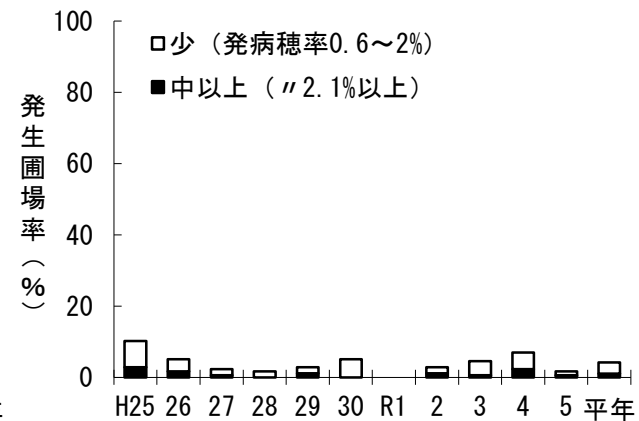


図4 稲こうじ病の発生圃場率の年次推移 (収穫期)

## 5 斑点米カメムシ類

- (1) 9月の基準圃場（北上市成田、メヒシバ、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、アカシジカスミカメの発生が第4半旬と第5半旬で平年より高かった（図5）。
- (2) 収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は37.5%（平年37.7%）で平年並だったが、1圃場当たりのすくい取り虫数は3.5頭（平年1.6頭）で、平年より高かった（図6）。

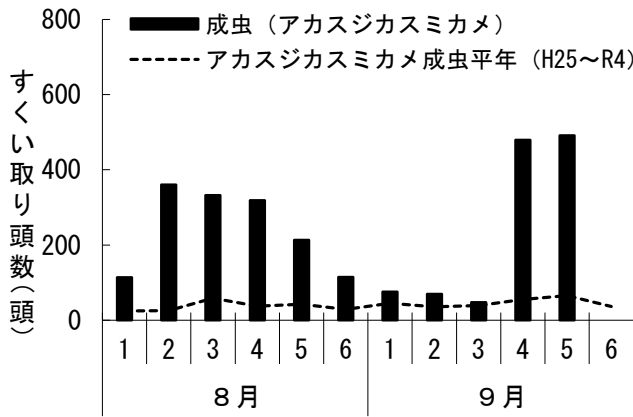


図5 基準圃場（北上市成田、メヒシバ、イタリアンライグラス）におけるアカシジカスミカメ成虫の時期別推移（すくい取り、往復20回振）

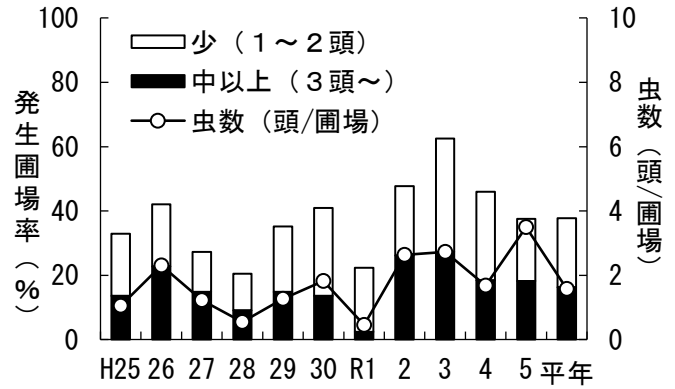


図6 斑点米カメムシ類の発生圃場率及びすくい取り虫数の年次推移（収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

## 6 ウンカ類

- (1) セジロウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は20.5%（平年29.2%）で、平年よりやや低かった（図7左）。

- (2) ヒメトビウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は80.7%（平年68.3%）で、平年よりやや高かった（図7右）。

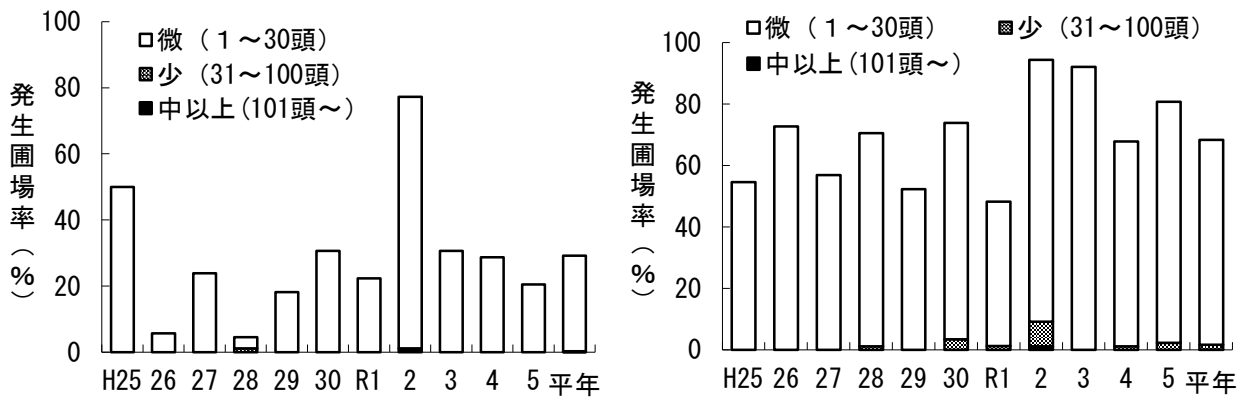


図7 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

（左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

## 7 ツマグロヨコバイ

- (1) 収穫期の本田内すくい取り調査では、確認されなかった。

### 8 イネキモグリバエ (イネカラバエ)

(1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は12.5% (平年1.9%) で、平年より高かった (図8)。

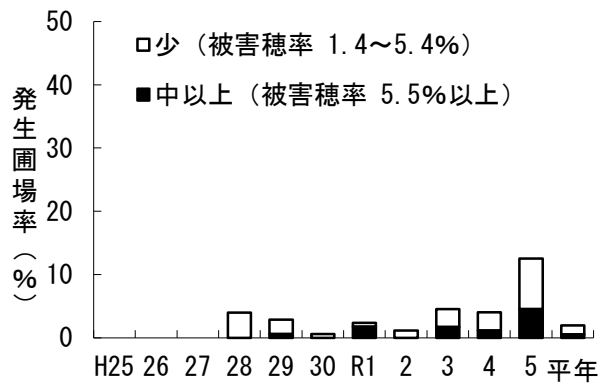


図8 イネキモグリバエの発生圃場率の年次推移 (収穫期)